

一次資料の寄贈について

人と防災未来センターでは約19万点もの震災資料を収集してきました

阪神・淡路大震災の直後から被災地の復興過程において使用・作成されたものを、人と防災未来センターでは一次資料(震災資料)と呼んでいます。

地震の被害の大きさや、被災地に関わった人々との交流の様子を示すものなどがこれまで寄贈されてきました。



被災したミニ置き時計
1600719-000001

六甲小学校避難所で
使用された炊飯器
0000435-001001

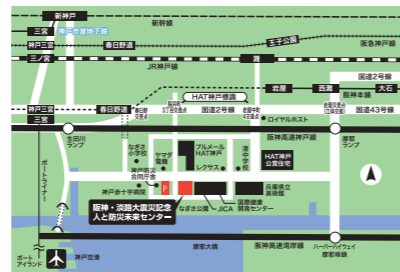
今後も継続して一次資料の収集をおこないます。
みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、寄贈の受け入れ方法に**変更**があります。



※最新の情報については、HPでご確認ください。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
URL <http://www.dri.ne.jp>
開室時間 9:30~17:30(展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)
閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日



資料室ニュース

6月2日(火)より、開室しています。

一部サービスを制限しておりますので、以下の資料室からのお願いをよくお読みの上、ご来室ください。

ご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

利用状況等が変わる場合がございます。最新情報はHPでご確認ください。

今年の「夏休み防災未来学校」は、オンラインでの開催となります。詳細はHPをご覧ください。



新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う人と防災未来センター資料室からのお願い

滞在時間の短縮にご協力をお願いします

- 閲覧する二次資料は事前に検索システムをご利用ください。
- 一次資料の閲覧は事前に申請を行ってください。

来室は事前予約制になります

- 来室希望日の前日16:30までに、資料室にご予約ください。
- 予約状況により、ご希望に添えないことがあります。

レファレンス・調べものは窓口以外を活用

以下の方法をご活用ください。



閲覧席の数を減らす

利用者同士の距離を一定程度保つため、閲覧席の数を減らし、座席の間隔を広げています。

共用機器類の利用停止 (または一部利用停止)

不特定多数の方が使用する機器の利用を制限しています。

手洗いおよびマスクの着用

- 体調がすぐれない方は、来室をご遠慮ください。
- カウンター職員もマスクを着用させていただきます。

震災資料のメッセージ 2020

もしも、
インターネットが
なかったら

緊急事態が起きた時、私たちには「情報」が必要です。避難所の開設状況、家族や友人の安否確認、救援物資が受け取れる場所、被害状況を知るためなど…

これらの情報は、どこから得ますか？

多くの人が、「インターネット」と答えるのではないのでしょうか。例えば、新型コロナウイルス感染症が流行している最中、みなさんもニュースサイトやSNSで情報を集めたと思います。

インターネットは、今や私たちに欠かせない情報源となっています。では、もしも、インターネットがなかったら。その時あなたはどのようにしますか？



阪神・淡路大震災当時、新聞社で使われていたFAX機。被災地の情報を発信するため、あるいは情報を収集するために使われていました。今ではインターネットを使って画像付きのメッセージを世界中の人と瞬時に共有できますが、この時代は電話回線を使ったFAXがその役割を担っていました。FAXは報道だけでなく、避難所で暮らす市民に向けた生活情報の発信や共有にも利用されました。

産経新聞 神戸総局取材基地
震災時使用のファックス
Fax used at the time of the Great Hanshin-Awaji Earthquake, At the Newspaper Company in Kobe.

資料番号 3400267-001019

2020 2021
7/7(火) → 5/30(日)

人と防災未来センター 西館3階(有料ゾーン)

ラジオ



神戸市長田区にある多文化・多言語コミュニティ放送局「FMわいわい」の放送が収録されたVHSテープです。

神戸市長田区は在日韓国・朝鮮人が人口の10%弱。高齢の在日一世のことを思い開局された「FMヨボセヨ」。

長田には難民として海を越えて渡ってきたベトナム人も多く住んでいました。同胞に震災情報を届けたいと開局された「FMユーメン」。

FMヨボセヨ + FMユーメン

「FMわいわい」が誕生

被災地に居る外国人の方々に情報を伝えたいという思いで開局された2つのラジオ曲の頭文字のYをとって、「FMわいわい」が誕生しました。

当センターには、およそ7年間の放送分、5,681本のVHSテープが寄贈されています。

FM放送用音声テープ
The tapes recording a radio for foreigners who lived in Nagata.

資料番号 289-005005

今現在、私たちは様々な情報を自由に手に入れることができます。しかし、そのなかから正しい情報を得ることは非常に難しいことです。この展示を機に、情報を発信している媒体はどういうものがあるのか？災害時にはどのような情報が必要なのか？考えてみて欲しいと思っています。